

栄町から平和を発信し続ける ～ひめゆりの変わらぬ思い～

「ひめゆり」と言えば糸満を思い浮かべる人も多いと思います。しかし、ひめゆり学徒隊の母校である沖縄師範学校女子部と沖縄県立第一高等女学校が、戦前、安里(現在の栄町一帯)に存在していたということをご存知でしょうか。戦後、両校の同窓会館がもとの場所に再建されましたが、このたび長年の時を経て新しく生まれ変わることにになりました。

● 問い合わせ ● ひめゆり平和祈念資料館 ☎ 997-2100



安里駅近くのひめゆり橋。上を走っているのは軽便鉄道(1931年頃)。戦後、同場所は道路になり、いつの間にか「ひめゆり通り」と呼ばれるようになった。

ひめゆり学徒隊

沖縄戦で多くの人が亡くなりました。沖縄県民全体では、12万2千人以上、実に県民の4人に1人が亡くなりました。戦争は軍隊と軍隊、軍人と軍人が戦うものですが、沖縄戦では、今の中学、高校生にあたる世代も、次々と戦場に送り込まれました。

その一例が、当時の「中学校」「実業学校」「師範学校」「高等女学校」の計21校に編成された「学徒隊」です。「ひめゆり学徒隊」もその中の一つでした。

「ひめゆり」とは、沖縄師範学校女子部(女師)と沖縄県立第一高等女学校(一高女)の愛称。女師は教員養成の教育機関であり、一高女は高等教育の機関でした。

1908年に一高女の新校舎が真和志村字安里(現那覇市安里)に落成。8年後の1916年には女師も首里から同じ敷地に移転し、両校は併置校となりました(通称ひめゆり学園)。

現在の栄町から大道小学校、真和志中学校一帯を含む広い校地は、周囲を畑地に囲まれた静かな環境でした。また、県内唯一の学校プールは生徒たちの大きな誇りでした。



1935年、女師と一高女の25周年・35周年創立記念行事が盛大に行われました。その時、両校の同窓会は校門近くに土地を共同で購入し、そこに同窓会館を建てました。



戦前の同窓会館

しかし、この会館は10年足らずで戦争によって消失。そして、ひめゆり学園においても、陸軍病院に動員された教師・学徒240人中136人、在地部隊その他91人が亡くなったという、大きな犠牲を被りました。

平和の守り神

戦後、1948年にひめゆり同窓会が発足。当面の課題は、同窓会館の再建と「ひめゆりの塔」の整備でした。ひめゆりの塔は、すでに1946年に建立され、慰霊祭を行っていました。戦前同窓会館の建っていた土地は580坪でしたが、戦後はこれを真和志村(後に真和志市、さらに那覇市に合併)が管理していました。

当時の翁長助静村長は、ひめゆり学園跡地に文芸学校と外語学校を招致し、教育的に蘇生させるという構想を描いていました。しかし、米軍政府と沖縄民政府により首里城跡に琉球大学

が設立されることになり、同構想は頓挫。その後、村財政強化のため商業地域の造成へと計画を変更し、現在の栄町市場が誕生しました。

すでに市場として使用されていた土地をひめゆり同窓会が取り戻すことは困難でした。しかし、その後いくつかの機会や条件のもと土地の返還が認められ、1967年3月、もとの場所に鉄筋コンクリート3階建ての同窓会館を建設しました。

当時、ひめゆり同窓会の嘉数芳会長は「会員の親睦の場として、また戦争で尊い生命を失ったひめゆり乙女たちの冥福を祈り、平和の守り神として立派な会館にしたい」と挨拶しました。そしてその後、1989年6月23日、ひめゆり同窓会は、募金に加え同窓会館の土地建物を担保にして、糸満に「ひめゆり平和祈念資料館」を建設。同窓会館は、全国の平和学習の拠点とも言える同資料館を生み出した母体となったのです。

ひめゆり同窓会館再生へ

現在の場所に同窓会館ができ今年で50年。長く空き部屋状態だった会館の再生を図るため、今回、市のモデル事業を活用し、改修することになりました。

1階は従来通りの市場になり、2階は平和と文化の島・沖縄の発信拠点ひめゆりピースホール、3階は市場の上に泊まる宿「リリィホステル」として6月末(予定)に生まれ変わります。変貌を遂げる那覇市において、ひめゆり同窓会館は、文化・芸術や地域密着型の観光を通して、変わらぬ平和への思いを栄町から発信し続けます。

(取材:秘書広報課/写真提供:ひめゆり平和祈念資料館)

市長室

はいたい! 幹子やいびん
平和を考える

6月23日は慰霊の日です。苦難の歴史を歩んできた沖縄県民が、先の大戦で犠牲となった先人の御霊を慰めるとともに、恒久平和の構築を誓うため、一番大切にしている日です。

平和の礎や県内各地の慰霊碑に、子どもたちと一緒に手を合わせる戦争体験者の姿を見るたび、「命どう宝」の思いを永遠に引き継いでいくという決意を強くいたします。

平和を求める心を育むうえで大切なことは、自分と他者との違いを排除するのではなく、互いの存在や考え方を認め合い、理解に努めることではないでしょうか。学校現場にいた頃にも、子どもたちに思いやりや、話し合いが争いを解決する一番の方法だと教えてきました。そして、私が掲げる市政運営の基本理念「平和・こども・未来」ひと つなぐ まち」には、平和を希求し、創造する人材づくりの意味も込めています。

「武器を用いない琉球」の歴史を引き継ぐ私たちには、「寛容の心」という大樹のより所があります。この心を世界に広げていくことが世界平和へと繋がっていくと確信しています。

那覇市は「寛容」という言葉を大切にし、市民の皆様とともに「誰もが、自分の個性を発揮できる平和な社会」を創っていききたいと、心から願っています。

那覇市長 城間 幹子



主な紙面

- 栄町から平和を発信し続ける「ひめゆりの変わらぬ思い」... 1
- 那覇の美味しいマグロを食べよう「環境トピックス」... 2
- 市議会議員「一般選挙」ふるさとづくり寄附金「バリアフリー」改修工事の費用補助... 3
- 頑張る幹子の健康チャレンジ「情報バック」... 4
- 博物館トピックス「ニューズダイジェスト」... 8